

11年産ビート見込み

作付面積	3,700ha (前年3,697ha)
07-10当り収量	5,750kg (前年6,495)
総収量	212,750 t (前年240,180 t)
糖分	16.4% (前年16.4%)
単価	16,350円
金額	3,478,462,500円

(資料：日本甜菜製糖株式会社)



ビートとは何か 【びーと】

英名のSugar Beetに由来し、通称『甜菜』、『さとう大根』と呼ばれるアカザ科の2年生植物。1年目に根部に砂糖を貯えるので砂糖原料となり、大根の冠部を残して越年し、翌年に畑に移植すると種を結ぶ。その祖先は、コーカサス地方や、カスピ海に自主している1年生の野生種である。もともと4～5%の糖分のものが、育種により栽培種が作られて2年生となり、糖分も今では17～22%にまで高められた。寒冷作物であるため、世界的にも北緯40°以北に分布。わが国では北海道にのみ栽培されている。世界砂糖生産の30%を占める原料だ。



工芸作物

収穫後、人の需要に供するまでに、比較的多く加工を要する作物。繊維料、糖料、油脂料、染料、香辛料、薬料などに分類する。綿・茶・タバコ・テンサイ・砂糖きび・落花生・ゴマ・オリーブなど。十勝地域が99%を占める工芸農作物の粗生産額は321億円で、前年に比べ7.8%増加した。これは、粗生産額の大部分を占める甜菜の平均糖度は低下したものの、生産量が増加したことによる。芽室町の工芸農作物41億3,200万円。

ビートは涼しい地方で育つ作物
日本では北海道だけで作られる工芸農作物
10月中旬から、畑のビートをトラックに乗せて砂糖をつくる工場に運ばれる
自動車や船、トラックに乗せられて
全国にあるお菓子や
ジュース製造工場に運ばれ
いろいろな商品としてお店で売られる
この町の砂糖がこの町で製造され
全国で使われ、そして売られている
しかし、砂糖をめぐる諸問題もある
砂糖に対する消費者の誤解も多い
生産者だけではなく
消費者も知らなければならぬこともある
ふつうの大きさの一個のビートから
コップ1杯分、約170グラムほどの砂糖が
できることも実はあまり知られていない

知っておきたい農業と食の関係

砂糖

の【特集】

まち

全国一のビートの産地

十勝地方はビート作りがさかんな地域
芽室町はその中でも
作付面積は最大、収穫量もトップを誇る
夏、青々と茂ったビート畑が広がる
このビートが私たちの食生活と
切っても切り離せない砂糖の原料だ
畑でできたビートがどのようにして
あの真っ白な雪のような砂糖にかわるのか
まさに神秘的だ